

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：函館地区
- 2 事例報告学校名：函館市立青柳小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 田上 悟
- 4 キーワード：学校運営協議会との連携・地域の教育資源の活用

1 はじめに

本校は函館市の南西部、函館山の麓に位置し、南には函館山、北には函館の市街地、そして東には津軽海峡、西には函館湾を眺めることができる。

青柳町周辺は自然に囲まれ、碧血碑をはじめ数多くの史跡や歴史的建造物を周囲にもち、伝統が息づく環境にある。また、桜の名所として市民の憩いの場である函館公園に隣接し、函館市の観光にも大きな貢献をしている地区でもある。

本校は、70余年の歴史をもつ谷地頭小学校と120余年の歴史をもつ青柳小学校の統合により、新生「青柳小学校」として平成2年度に生まれ変わり、令和9年度には開校150周年を迎える函館市内で一番歴史の古い学校である。本年度は、通常学級7、特別支援学級2の計9学級178人の児童が在籍している。

地域には、二代、三代にわたる卒業生が住み、学校に強い愛着と誇りをもち、教育に関心が高く、協力的である。



2 地域コーディネーターを中心とした学校運営協議会の取組

函館市では平成28年度から学校運営協議会の取組をはじめ、令和7年度には、31校に20人の地域コーディネーターが配置されている。

本校が参加している学校運営協議会「青柳ネット」は、函館市の西部地区に位置する4校（中1校、小3校）で組織している。地域コーディネーターが中心となり、各校における学習支援・地域連携の具現化を図るために、町会、保護者、関係諸機関の協力のもと活動を進めている。

(1) 地域のゲストティーチャーの活用

地域の人材や施設を最大限に活用するために、青柳ネット内で調整を図りながら活動を進めている。

本年度、本校では、函館市地域交流まちづくりセンターの方を講師に「昔の函館講話」、包括支援センターの方を講師に「認知症サポーター講座」、また、函館市企画部の協力を得て「バス乗り方教室」を実施し、意欲的に取り組む児童の姿が見られた。



(2) 地域の見守り活動

青柳ネット4校のPTAと函館市西部地区の22町会で「青柳ネット防犯パトロール隊」を組織し、日常的に登下校の見守り活動に取り組んでいる。

また、旗の設置、ポスターの掲示等にも取り組み、児童生徒の安全を確保するとともに、地域全体の防犯意識の向上に努めている。



(3) ボランティア活動

近隣の児童館のお祭りや各町会のバザー等が開催される際に、各校でお手伝いのボランティアを募っている。土日開催のため参加者は多くはないが、地域の方とともに活動するよい機会となっている。

3 地域の教育資源の活用

函館市は古くからの歴史的経緯と地理的特性から、歴史、水産、海洋科学、観光など、教育資源に恵まれている。それらを教育活動に取り入れることで、私たちが住む函館市についての理解を一層深めることにつながっている。

(1) 植栽活動

函館市の西部地区は、1859年の函館港の開港とともに発展し、異国情緒が漂う歴史的景観が魅力的で、国内外から多くの観光客が訪れる地区である。

子どもたちは、その西部地区の玄関口である十字街電停周辺の植栽活動に、地域の方とともに参加している。函館市は、国際観光都市を宣言している街でもあるので、函館の観光について考えるよいきっかけとなった。



(2) 遺跡見学

函館市の南茅部地区にある大船遺跡は「北海道・北東北の遺跡群」の一つとして、2021年にユネスコ世界文化遺産に登録されたたいへん重要な遺跡である。

子どもたちは、縄文時代の人が実際に見ていたであろう太平洋の眺望や縄文の森など、自然環境を体感しながら、当時の生活や文化を学ぶことができた。



(3) 海洋をテーマとした教育

函館市では、「海洋」をテーマとしたSTEAM教育の推進を図っている。

本校では、北海道運輸局や北海道海事広報協会の協力を得て「海洋教育授業」に取り組んでいる。本年度は、まず、日本船主組合や津軽海峡フェリーの方を講師に招き、海運について学習した。その後、函館どつくの見学会を行い、海運を支えている造船について学習した。子どもたちは、函館の企業が海運を支えているという新たな気付きをもつことができた。



4 おわりに

今年度、学校運営協議会や関係各所の協力を得て、様々な教育活動に取り組み、子どもたちの新たな発見や気付きにつながることができた。

本校の目指す学校像は「感性と夢をはぐむ学校」である。その実現のためには、様々な人との出会いや交流、本物にふれた時の驚きや感動が不可欠である。本校は、教育資源の宝庫である函館市にあり、温かく協力的な地域に支えられている。まさに最高の教育環境であるといえる。

今後も、学校と地域や関係各所の協働体制のもと、本校教育の推進と地域の発展に注力していきたい。